2019年度 東邦音楽大学大学院 シラバス

— 目 次 —

文献研究 I	•••••	1
文献研究Ⅱ	•••••	3
演奏表現研究	•••••	5
身体表現演習	•••••	7
民族音楽表現法研究		9
ウィーンアカデミー特別研究	•••••	11
楽書研究	•••••	13
フランス語		15
アンサンブル表現研究A(伴奏法)	•••••	17
アンサンブル表現研究B(ピアノアンサンブル・室内楽)	•••••	18
鍵盤音楽史研究	•••••	19
作品研究A(バロック・古典期)	•••••	21
作品研究B(ロマン期以降)	•••••	23
アンサンブル表現研究(室内楽)	•••••	25
作品研究(室内楽)	•••••	27
管弦楽史研究	•••••	29
作品研究A-I·II(日本歌曲)	•••••	31
作品研究B-I·I(外国歌曲)	•••••	33
作品研究C- I・Ⅱ (オペラ)	•••••	35
アンサンブル表現研究(声楽)	•••••	37
歌曲・オペラ史研究	•••••	39
作曲技法特別研究 I	•••••	41
作曲技法特別研究Ⅱ	•••••	43
管弦楽法表現研究 Ⅰ・Ⅱ		45
楽曲表現研究 I • Ⅱ	•••••	47
作曲楽書特別研究	•••••	49
ピアノ特別演習 I	•••••	51
ピアノ特別演習 II	•••••	52
声楽特別演習 I	•••••	53
声楽特別演習Ⅱ	•••••	54
管弦打特別演習 I		55
管弦打特別演習 Ⅱ		56
作曲特別演習I		57
作曲特別演習Ⅱ		58

科目名(クラス)	文献	研究 I	開講学期 通年 単位数		2	配当年次	1	
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象•条件	全領域必修					
【授業の概要】								

音楽の研究と発表、および修士論文作成支援のための講座です。「修士論文」を書くためには、音楽研究の基礎的な知識や方法をしっかり身につけ、早めに研究テーマを決定することが必要となります。研究テーマの見つけ方、文献活用の方法、論文の構成法など音楽研究に必要な知識や方法を学びながら、各自のテーマについて研究する力を身につけます。

【授業の到達目標】

- ・修士論文作成に向けて、音楽研究の基礎的な知識や方法を身につける。
- ・各自のテーマを決めて研究をスタートする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習、および個人指導。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・日頃から探究心をもって演奏や創作に取り組むことが、研究テーマの発見につながります。
- ・テーマは主指導の先生ともよく相談しながら早めに決めましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内の課題40%、研究状況40%、その他の授業内評価(研究姿勢等)20%を基準に総合的に評価。

教科書	改訂版 音楽の文章セミナー	著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

	【授耒訂画 内谷 华佩子首】		
回数	授 業 内	容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽研究の意味 一演奏や創作にとって音楽研究はなせ必要な	予習:これまでに音楽研究をしたことがあるかどう か振り返ってみる。 復習:音楽研究をふだんの演奏や創作の中に取 り入れる。	
第2回	研究テーマの見つけ方①		予習:教科書第3章を読んでおく。 復習:研究テーマを少しずつ絞り込んでいく。
第3回	研究テーマの見つけ方②		同上
第4回	文献の基礎知識① 一音楽文献の種類とそ	の活用法―	予習:図書館などで音楽文献を探してみる。 復習:音楽文献を活用する。
第5回	文献の基礎知識②―音楽文献の種類とその	活用法一	予習:図書館などで音楽文献を探してみる。 復習:音楽文献を活用する。
第6回	文献の探し方①		予習:教科書第4章を読んでおく。 復習:文献をリサーチする。
第7回	文献の探し方②		同上
第8回	論文不正防止に関する講義		予習:論文不正に関するニュースなどに関心を持つ。復習:講義の内容を自身の論文作成に生かす。

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授業内容	準備学習(予習・復習)
第9回	文献の整理法	予習:必要な文献を選び出しておく。 復習:文献表を作成する。
第10回	研究の方法① -研究対象への様々なアプローチの仕方-	予習:研究対象を想定する。 復習:研究の方法を模索する。
第11回	研究の方法② -研究対象への様々なアプローチの仕方-	同上
第12回	研究の方法③ -研究対象への様々なアプローチの仕方-	同上
第13回	個人発表① 研究の準備状況を発表する。	予習:現段階での研究テーマ、必要な文献、研究 の方法などを整理しておく。 復習:これまでの成果をふまえて研究を進める。
第14回	個人発表② 研究の準備状況を発表する。	同上
第15回	前期のまとめ	予習:前期の成果を振り返る。 復習:夏期休業中の研究計画を立てる。
第16回	論文の構成法①	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:論文の構成を立ててみる。
第17回	論文の構成法②	同上
第18回	論文の構成法③	同上
第19回	音楽論文の講読①	予習:あらかじめ配布した音楽論文を読んでおく。 復習:音楽論文の要点を整理する。
第20回	音楽論文の講読②	同上
第21回	音楽論文の講読③	同上
第22回	音楽論文の講読④	同上
第23回	音楽論文の講読⑤	同上
第24回	音楽論文の講読⑥	同上
第25回	論文作成に向けて -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	予習:研究テーマを絞り込んでおく。 復習:研究のテーマ、目的、構成を文章にまとめ る。
第26回	論文作成に向けて -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	同上
第27回	論文作成に向けて -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	同上
第28回	個人発表①	予習:研究テーマについて発表の準備をする。 復習:研究テーマについて検討を重ねる。
第29回	個人発表②	同上
第30回	後期のまとめ	予習:授業で身につけたことを振り返つる。 復習:来年度に向けて自らの研究計画を立てる。

科目名(クラス)	文献码	研究 Ⅱ	開講学期 通年		開講学期 通年 単位数 2		配当年次	2
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象·条件	全領域必修					
【授業の概要】								

音楽の研究と発表、および修士論文作成支援のための講座です。文献研究 I で学んだ音楽研究の基礎的な知識や方法を ふまえて、論文作成の実践的な技術を身につけながら修士論文を作成していきます。

【授業の到達目標】

- ・修士論文作成の実践的な技術を身につける。
- 各自の研究テーマに基づいて修士論文を完成させる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、演習、および個人指導。

【履修時の「留意点」と「心得」】

論文を書き上げるためには、研究を持続していく力が不可欠です。毎週何らかの進展があるようしっかり研究に取り組んでく ださい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内の課題、発表等40%、修士論文への継続的な取り組み40%、その他の授業内評価(研究姿勢等)20パーセントを基準に総合的に評価。

教科書	改訂版 音楽の文章セミナー	著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

	【技术計画 内谷 华州子百】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	修士論文のテーマ、研究目的、研究方法の設定①	予習:研究テーマと目的、方法を明確にしておく。 復習:研究内容について検討を重ねる。
第2回	修士論文のテーマ、研究目的と研究方法の設定②	同上
第3回	論文のテーマ、研究目的と研究方法の設定③	同上
第4回	論文の構成①	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:構成について検討を重ねる。研究
第5回	論文の構成②	同上
第6回	論文の書き方:序論① 	予習:研究目的、研究方法を確認しておく。 復習:序論の推敲を重ねる。
第7回	論文不正に関する講義	予習:論文不正に関するニュースなどに関心を持つ。 復習:講義の内容を自らの論文作成に「生かす。
第8回	論文の書き方:序論③ 	同上

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)	
第9回	 論文の書き方∶本論•結論 	予習:研究目的、研究方法を確認しておく。 復習:結論を予測してみる。	
第10回	先行研究の活用と独創的な視点の発見①	予習:研究に必要な文献を用意する。 復習:文献を読む。	
第11回	先行研究の活用と独創的な視点の発見②	同上	
第12回	中間発表に向けて①	予習:序論をもとに発表原稿を作成する。 復習:推敲を重ねる。	
第13回	中間発表に向けて②	同上	
第14回	中間発表会	予習:序論をもとに発表原稿を作成する。 復習:発表内容に添うよう論文を作成していく。	
第15回	前期のまとめ	予習:研究内容に変更はないか確認する。 復習:論文作成のスケジュールを立て、研究を進める。	
第16回	論文作成のためのガイダンス① 一論文の書式-	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:書式に添って表紙、目次等を書いてみる。	
第17回	論文作成のためのガイダンス② 一論文の書式-	同上	
第18回	個別指導①	予習:本論をできるところから書き進めていく。文献表は随時更新する。 復習:内容を修正しながら書き進めていく。	
第19回	個別指導②	同上	
第20回	個別指導③	同上	
第21回	個別指導④	同上	
第22回	最終発表①	予習:論文の進捗状況を把握しておく。 復習:論文完成までのスケジュールを確認し、書き進める。	
第23回	最終発表②	同上	
第24回	個別指導⑤	予習:論文を書き進める。 復習:仕上げに向けて書式を整える。	
第25回	個別指導⑥	同上	
第26回	個別指導⑦	同上	
第27回	個別指導⑧	同上	
第28回	個別指導⑨	予習:論文提出後、要旨を作成する。 復習:要旨を修正する。	
第29回	別指導(10) 同上		
第30回	後期のまとめ	予習:論文の成果を振り返る。 復習:論文の成果を修了演奏会などの実践に生 かす。	

科目名(クラス)	演奏表	演奏表現研究		通年	単位数	2	配当年次	1•2
担当教員	上山 典子	履修対象·条件						
【授業の概要】								

演奏家および音楽の教育者には、優れた技術や技巧だけでなく、作品や作曲家、そして曲が生み出された音楽史的背景に対する深い理解が不可欠です。本授業では毎回(あるいは複数回にわたって)ある特定の作品またはジャンルを取り上げ、それらを深く読み込む(=作品分析を行う)と同時に、作曲家、時代の音楽的特徴・動向などにも注目していきます。

【授業の到達目標】

本授業では作品を深く読み込む力を養うとともに、これらを生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向けることで、豊かな演奏表現力と音楽を伝える力を養うことを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

担当者による講義のほか、履修者による作品分析、作品批評や鑑賞のディスカッションにも時間を割きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

自身の専門分野はもちろん、そのほかの領域の作品や作曲家、時代にも、大いなる関心と興味をもって取り組むようにして下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

各学期末のレポート課題(各学期50%)

教科書	(毎回レジュメを配布します)	著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献	(授業中に随時紹介します)	著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	音楽史における「バロック」概説	予習:芸術史における「バロック」の意味を調べる 復習:音楽史におけるバロックの特徴をまとめる
第2回	バロック時代の声楽曲:カンタータ	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第3回	バロック時代の声楽曲:オラトリオ	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第4回	バロック時代の器楽曲: コンチェルト	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第5回	バロック時代の器楽曲:組曲	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第6回	バロック時代の器楽曲:ソナタ	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第7回	音楽史における「古典派」(初期古典派〜ウィーン古典派)概観	予習:「古典派」の意味合いを調べる 復習:音楽史における「古典派」の特徴をまとめる
第8回	古典派の弦楽四重奏曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	古典派の弦楽四重奏曲 ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第10回	古典派のピアノ・ソナタ ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第11回	古典派のピアノ・ソナタ ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第12回	古典派のピアノ・ソナタ ③	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第13回	古典派時代の交響曲ジャンル ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第14回	古典派時代の交響曲ジャンル ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第15回	古典派時代の交響曲ジャンル ③	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第16回	古典派時代の交響曲ジャンル ④	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第17回	古典派のピアノ協奏曲 ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第18回	古典派のピアノ協奏曲 ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第19回	音楽史における「ロマン主義時代」概観	予習:「ロマン主義」の意味合いを調べる 復習:「ロマン主義」時代の特徴をまとめる
第20回	19世紀のピアノ曲: ショパン ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第21回	19世紀のピアノ曲: ショパン ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第22回	19世紀のピアノ曲: シューマン ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第23回	19世紀のピアノ曲: シューマン ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第24回	19世紀のピアノ曲: リスト ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第25回	19世紀のピアノ曲: リスト ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第26回	ポスト・ベートーヴェン時代の標題交響曲	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第27回	交響詩ジャンル	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第28回	19世紀後半の交響曲 ①	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第29回	19世紀後半の交響曲 ②	予習:指定する作品を聴く 復習:授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第30回	バロック~古典派~19世紀の音楽様式の変遷とまとめ	予習:各時代の音楽史的特徴をまとめる 復習:各時代の音楽史的流れを振り返る

科目名(クラス)	身体表現演習		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1~2
担当教員	渡辺 恵	履修対象·条件	特になし					
【授業の概要】								

バレエは身体で音楽やドラマ、感性を表現します。 身体で音楽を感じ、表現する事は、美しい音楽を奏でるパフォーマンス向上に繋がります。

- ・音楽家としての身体づくり
- ・音楽的な動き、リズム
- ・西洋の作法であるバレエの様式美、エレガンスを身につけます

【授業の到達目標】

動く時に正しい姿勢が保てるようになる。 身体でリズムが体現出来るようになる。 積み重ねの効果を体感出来るようになる。 授業の中で体得したことをどう人に伝えるかディスカッションする。

【授業の「方法」と「形式」】

実技方式 バレエレッスンのCDを使用し、音楽に合わせてレッスンします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ずレッスンウェアを着用し、バレエシューズを使用します。 積極的に授業に参加し、積み重ねの効果を体感して欲しいです。 バレエのDVDや舞台を観賞する機会も設けてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極的な参加。

状況に応じてレポートの提出有り。

教科書		T A	著者等		出版社	
教科書		Ā	著者等		出版社	
参考文献	「バレエ用語集」	Ā	著者等	クロワゼ編	出版社	新書館
参考文献		PA	著者等		出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	
第2回	フロアでのバレエストレッチ 姿勢 足のポジション	授業のための服装を整える
第3回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン プリエ、タンジュ、 デガジェ	練習を繰り返す
第4回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン プリエ、タンジュ、 デガジェ、 ルルベ	練習を繰り返す
第5回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン、ポールドゥブラ	練習を繰り返す
第6回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン ポールドゥブラ、プティジャンプ	練習を繰り返す
第7回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン、マーチ	練習を繰り返す
第8回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン マーチ、3拍子	練習を繰り返す

	【授業計画·内容·準備学習】			
回数	授 業	内	容	準備学習(予習·復習)
第9回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン マーチ、3拍子、シャッセ			練習を繰り返す
第10回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン シャッセ、ターン			練習を繰り返す
第11回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン 簡単な踊り			練習を繰り返す
第12回	同上			練習を繰り返す
第13回	同上			練習を繰り返す
第14回	同上			練習を繰り返す
第15回	まとめ及びディスカッション			練習を繰り返す
第16回	復習			練習を繰り返す
第17回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン			練習を繰り返す
第18回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン 簡単な踊り			練習を繰り返す
第19回	同上			練習を繰り返す
第20回	同上			練習を繰り返す
第21回	同上			練習を繰り返す
第22回	同上			練習を繰り返す
第23回	同上			練習を繰り返す
第24回	同上			練習を繰り返す
第25回	同上			練習を繰り返す
第26回	同上			練習を繰り返す
第27回	同上			練習を繰り返す
第28回	同上			練習を繰り返す
第29回	同上			練習を繰り返す
第30回	まとめ及び成果発表			練習を繰り返す

科目名(クラス)	民族音楽表現法研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1•2
担当教員	櫻田 素子	履修対象·条件	作曲領域科目					
「授業の概要」								

- ・西洋音楽とは異なる特徴をもつ諸民族の音楽の表現方法について、人間の営みという観点から多角的にとらえて学び、研究します。・諸民族の音楽の例をいくつか演奏実習し、民俗的な手法によって習得します。
- ・民族的、伝統的な手法を用いて実際に作品制作を行なうことで、演奏表現、作曲法、総合芸術のクリエイション、学習法、指導法、等に関わる グローバルな知識と技能を身につけます。

【授業の到達目標】

- ・西洋音楽とは異なる技法、美意識、価値観をもつ音楽を総合的、体感的に学ぶことにより、世界の音楽全般に関する知識を増 やし、音楽表現の幅を広げる。
- ・世界の諸民族に多く見られる「コミュニティ音楽」を中心に実習と研究を重ね、社会における音楽活動に必要な基礎的な技能や 方法論を深く考察し、理解し、実際の作品作りや演奏、指導に生かせるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、実技、クリエイション、学生と教員によるディスカッション、視聴覚資料の視聴、グループ・ワークをバランスよく取り入れて行ないます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・授業内で紹介する視聴覚資料を元に、関連する音楽を幅広くよく聴き、積極的に研究に取り組んでください。
- ・打楽器の演奏など実技も多く行なうため、動きやすい服装で授業にのぞんでください。
- ・「観察する」「受けとる」「行動する」「深く考える」、この4つを繰り返すことで自身のスキルと知識を獲得していきましょう。

予習:「儀礼」とは何か、また、世界に存在する宗教には どんなものがあるか、文献資料で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分

の考えを文章でまとめる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・レポート提出と作品発表 60%
- ・毎回の授業の課題達成度と小レポート 40%

第10回 社会と音楽(1)儀礼や宗教における音楽

孝	教件書			徳丸吉彦 監修 増野亜子 編	出版社 音楽之友社		
孝				島崎篤子•加藤 富美子	出版社 音楽之友社		
参	考文献	事典世界音楽の本		著者等	徳丸吉彦 他	出版社 岩波書店	
参	考文献	はじめての世界音楽		著者等	柘植元一·塚田 健一 編	出版社 音楽之友社	
	【授業計	画·内容·準備学習】					
回数		授 業 内	容		準備:	学習(予習・復習)	
第1回	はじめに~	日本における「音楽」とは?			る音楽の現状につい	、内容を確認しておく。日本におけいて考察しておく。 けいた点について調べる。	
第2回	「ワールド・ミ	ミュージックス」と「行為する音楽=	ミュージッキング」		ジッキング」について	ージックス=世界音楽」と「ミュー 教科書など文献資料で調べる。 参考文献を詳しく読む。	
第3回	予習:身の周りにある音と音楽との関係性について、自分なりに考察しておく。 人間の営みとしての音楽(1)音を聴くということ~自然音・人工音、環境 (複習:授業で扱った文献や資料を詳しく再読、再視聴し、自分の考えを文章でまとめる。						
第4回	人間の営み	現の種類と、ことばの音楽への影響 こ考察しておく。 た文献や資料を読み、視聴し、自分 める。					
第5回	人間の営み	としての音楽(3)身体性			分なりに考察しておく	た文献や資料を読み、視聴し、自分	
第6回	予習:音楽と舞踊との関係性について、自分なりに考察 しておく。 を習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる						
第7回	予習:世界にはどんな楽器があるか調べる。 道具と楽器について 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分 の考えを文章でまとめる。						
第8回	予習: 口頭伝承で音楽を学んだことがあるかどうか、自身の経験を振り返り書き留めておく。 復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。						
第9回	音楽の伝承	と記録について(2)記譜法			あるか、あれば、その る。	楽譜を用いた音楽を習得したことが D楽譜を授業に持参するよう準備す た文献や資料を読み、視聴し、自分 める。	

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授 業 内	容	準備学習(予習・復習)
第11回	社会と音楽(2)地域性、コミュニティ、政策		予習:社会を構成するコミュニティにはどんなものがあるか、国家や政策は音楽にどんな関わりがあるか、自分なりに考察し、書き出しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第12回	社会と音楽(3)メディアとポピュラー・ミュージ・	ック	予習:メディアとは何か、また、現在、どんなメディアが存在するか、文献資料等で調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第13回	諸民族における音楽表現研究(1)アフリカの 本)	打楽器アンサンブル1(基	予習: アフリカ大陸、特に、ギニア・セネガルなどの西アフリカ地域の地理、気候、文化など基本情報を調べる。 復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授 業で学んだリズムやフレーズを反復練習する。
第14回	諸民族における音楽表現研究(2)アフリカの語用)	打楽器アンサンブル2(応	予習:前回学んだリズムやフレーズを反復練習し、身につけておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第15回	諸民族における音楽表現研究(3)アフリカの語	打楽器アンサンブル3(仕上	予習:リズムやフレーズを反復練習し、身につけて、応用できるようにしておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第16回	諸民族における音楽表現研究(4)インドネシス本)	ア・バリ島のガムラン1(基	予習: インドネシアの地理、気候、文化など基本情報を調べる。 復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだフレーズやリズムを反復練習する。
第17回	諸民族における音楽表現研究(5)インドネシス本)	ア・バリ島のガムラン2(基	予習: パリ島の音楽芸能について調べる。前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、身につけておく。 復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授 業で学んだフレーズやリズムを反復練習する。
第18回	諸民族における音楽表現研究(6)インドネシア サンブルの仕組み)	ア・バリ島のガムラン3(アン	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、身につけておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第19回	諸民族における音楽表現研究(7)インドネシア サンブルの仕組み)	ア・バリ島のガムラン4(アン	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、アンサンブルの仕組みへの理解を深めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第20回	諸民族における音楽表現研究(8)インドネシブ サンブル応用)	ア・バリ島のガムラン5(アン	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、アンサンブルの仕組みへの理解を深めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第21回	諸民族における音楽表現研究(9)インドネシブサンブル応用)	ア・バリ島のガムラン6(アン	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、自分なりの方法で記譜を試みる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授 業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第22回	諸民族における音楽表現研究(10)インドネシ サンブル仕上げ)	ア・バリ島のガムラン7(アン	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、理解を深め、アンサンブルを仕上げるための準備をする。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第23回	異文化との接触、変容、融合について		予習:自らの異文化との出会いの体験を考察し、書き留めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第24回	諸民族における音楽表現研究(11)日本の郷:	土芸能1	予習:自らの出身地における、音楽を伴う郷土芸能について調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだフレーズやリズムを反復練習する。
第25回	諸民族における音楽表現研究(12)日本の郷:	土芸能2	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、身につけておく。また、その楽曲について記譜を試みる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授 業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第26回	諸民族における音楽表現研究(13)日本の郷:	土芸能3	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、理解を深め、アンサンブルを仕上げるための準備をする。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第27回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽 <i>0</i> し、構成		予習:民族的な表現技法の中で何を用いるか、作品 テーマは何にするか、考えてくる。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を練り上げ る。
第28回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽の	D制作実習(2)練習、記録	予習:作品内容を共演者にわかりやすく伝達できるよう 練習してくる。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を手直ししま とめる。共演者と練習をする。
第29回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽の	つ制作実習(3)仕上げ	予習:作品の仕上げに必要な準備をする。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を仕上げ る。共演者と練習をする。
第30回	作品発表、まとめ		予習: 作った楽曲の作品趣旨、技法の解説を準備しレポートとしてまとめる。 復習: 授業全体で扱った音楽に関連する視聴覚資料を幅広くよく見聴きする。

科目名

ウィーンアカデミー特別研究

【授業計画の概要】

【目的】音楽表現と創造の実際を歴史的に検証し、参加者に完成された音楽家、芸術家として自立する為の門を開く。

【内容】高度な専攻実技レッスンの他、音楽表現と解釈の手段として様式に焦点をあてる。ここで言う様式とは芸術作品に内包される全ての要素を指し、解釈とは作品の意図を聴衆に伝える為にその要素から再創造する演奏表現法を指す。様式的要素はリズム、旋律、和声、対位法、モティーフ、フレージング、アーティキュレーション、装飾法等であり、これ等を形式、伝統、各時代の楽器の変遷と歴史の知識で統合し、且つ演奏家自身の個性や人生との共感部分から生じる霊感と共に作品を解釈する事。

【授業の到達目標】

音楽を学ぶ上での基礎となる普遍的要素を学び、高度な技術と芸術性を持った演奏・作品発表が出来る。

【成績評価の方法】

実技主体に総合的に評価します。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	
5	
6	
7	◇様式学基礎:様式学を学ぶ為の基礎となる音楽表現上の普遍的な要素を学ぶ ◇様式学概論:バロック、古典派、ロマン派、印象派とその時代、近現代の様式学の理論と
8	表現の実際を他の文化との比較を交えながら具体的に学ぶ
9	◇自由即興演奏法:ピアノという楽器をより深く知る事をめざし、音色、響き等の感覚を即興 演奏を通して養う ◇ドイツ歌曲歌唱法:ドイツ歌曲専門家による本格的歌唱指導
10	◇ソロ・コレペティツィオン:オペラを含む声楽作品の表現法 ◇ドイツ語朗読法:ドイツ語の言葉自体による表現法と発音の指導 ◇各専攻実技レッスン:ピアノ、声楽、器楽のレッスンは高度の技術と芸術性を要求され、
11	様式的に正確な表現法も学ぶ ◇修了演奏会 ◇個人研究:他の文化との様式比較研究
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	楽書研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1•2
担当教員 上山 典子		履修対象·条件						
【授業の概要】								

本授業では英語で書かれた音楽事典の項目、エッセイ、解説などを読み、その内容の解読を行います。例えば、The Harvard Dictionary of Music や The New Grove Dictionary of Music and Musicians 第2版の項目(音楽史で重要とされる用語、作曲家や作品の解説、時代区分の名称)、あるいは演奏会用の楽曲解説やCDの解説書、演奏家のプロフィールなどを取り上げる予定です。
ただし履修者数、専攻、関心分野、英語力によって、内容を変更する可能性があります(履修者と相談の上、決定)。

【授業の到達目標】

履修者は一年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語の文献からだけでは得られない知識を 獲得することで、音楽的視野を広げることを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式 (英文楽書を履修者全員で輪読すると同時に、その内容について担当者が解説していきます)。

【履修時の「留意点」と「心得」】

本授業は履修者全員による輪読を基本に進めるため、毎回予習が必要です(辞書または電子辞書必携)。

【成績評価の「方法」と「基準」】

- 1) 毎回の授業で扱う楽書の事前予習状況(50%)
- 2) 各学期の第15回に行う筆記試験(50%)

教科書	(毎回プリントを配布します)	著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	
参考文献	(授業内で適宜紹介します)	著者等	出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	【前期オリエンテーション】 『音楽事典』についての概説、および前期に講読する文献の決定	復習:紹介された文献を整理する
第2回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む(18世紀半ば以前①、例えば「バロック」の時代概念について)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第3回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀半ば以前②、例えば「バロック」の時代概念について)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第4回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む(18世紀半ば以前③、例えばバロック時代の「コンチェルト」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第5回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む(18世紀半ば以前④、例えばバロック時代の「コンチェルト」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第6回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀半ば以前⑤、例えばバロック時代の「ソナタ」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第7回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀半ば以前⑥、例えばバロック時代の「ソナタ」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第8回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半①、例えば「古典派」の時代概念)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半②、例えば「古典派」の時代概念)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第10回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半③、例えば「シンフォニー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第11回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半④、例えば「シンフォニー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第12回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半⑤、例えば「ハイドン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第13回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半⑥、例えば「ハイドン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第14回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (18世紀後半⑦、例えば「ハイドン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第15回	前期の筆記試験および内容確認 (授業前半に試験を行い、後半に履修者全員で内容確認を行う)	予習:試験の準備 復習:試験の文献を読み直す
第16回	【後期オリエンテーション】 文献・解説書の紹介、および後期に講読する文献の決定	復習:紹介された文献を整理する
第17回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半①、例えば「ロマン派」の時代概念)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第18回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半②、例えば「ロマン派」の時代概念)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第19回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半③、例えば「ショパン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第20回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半④、例えば「ショパン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第21回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半⑤、例えば「シューマン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第22回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀前半⑥、例えば「シューマン」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第23回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半①、例えば「ブラームス」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第24回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半②、例えば「ブラームス」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第25回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半③、例えば「ブルックナー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第26回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半④、例えば「ブルックナー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第27回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半⑤、例えば「マーラー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第28回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半⑥、例えば「マーラー」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第29回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などを読む (19世紀後半⑦、例えば「国民楽派」)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第30回	後期の筆記試験および内容確認 (授業前半に試験を行い、後半に履修者全員で内容確認を行う)	予習:試験の準備 復習:試験の文献を読み直す

							2019年	皮 果	邦音楽大学:	人字院
科目	名(クラス)	フラン	ノス語	開講学	期通	i年	単位数	2	配当年次	1
担	当教員	伊藤 制子	伊藤 制子 履修対象·条件							
【授業の概要】										
フランス	フランス語を読み、書き、話し、歌うための基礎を学びます。									
【授業の到達目標】										
基本的な文法、発音を理解し、自身の演奏や研究に役立てることを目標にしています。										
	【授業の	方法」と「形式」】								
講義形	式ですが、問	題解答や小テストなる	ども含みます。							
	【履修時の	「留意点」と「心得」】								
フランス	フランス語は継続が大切です。辞書、教科書を必ず持参し、毎日復習もしましょう。									
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】								
	 枚科書	「ピエールとユゴー 三詞	打版」小笠原洋子:	著、白水社	著者等			出版社		
孝	数科書				著者等			出版社		
参	考文献	辞書 現代フランス語語	辞典(白水社)		著者等			出版社		
参	考文献				著者等			出版社		
	【授業計画	·内容·準備学習】								
回数		授業	内 容						習•復習)	
第1回	授業概要の記	说明					:シラバスを記 :フランス語の			
第2回	フランス語の	発音と辞書の使い方					:発音の項目 :辞書でいろ		おく 葉をひいてみる	,)
第3回	挨拶と不定冠						:教科書の説 :挨拶の表現			
第4回	基本動詞と数	Ţ.				予習: 教科書の説明を読む 復習: 10までの数をおぼえる				
第5回	これは~です	の表現				予習:教科書の説明を読む 復習:基本表現を見直す				
第6回	定冠詞と第1	 群規則動詞				予習:教科書の説明を読む 復習:er 動詞を自分で活用させてみる				

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授業内	容	準備学習(予習・復習)
第7回	aller venir の表現		予習:教科書の説明を読む 復習:aller venir を使えるようにする
第8回	冠詞の縮約		予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する
第9回	否定文		予習:教科書の説明を読む 復習:ne pas が使えるようにする
第10回	天気、体調の表現		予習:教科書の説明を読む 復習:挨拶の表現を見直す
第11回	部分冠詞と数		予習: 教科書の説明を読む 復習: 60までの数をおぼえる
第12回	近接未来、近接過去		予習:教科書の説明を読む 復習:近接未来、近接過去を使えるようにする
第13回	複合過去1		予習:教科書の説明を読む 復習:過去の出来事を複合過去で表現してみる
第14回	前期のまとめ		予習:基本動詞、数、冠詞を確認する 復習:自己紹介の表現をみなおす
第15回	まとめと小テスト		予習:教科書の説明を読む 復習:挨拶の表現を見直す
第16回	前期の復習		予習:教科書を見直す 復習:動詞の復習をしておく
第17回	複合過去2		予習:教科書の説明を読む 復習:複合過去の確認をする
第18回	半過去		予習:教科書の説明を読む 復習:半過去と複合過去の違いを理解しておく
第19回	単純未来		予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第20回	さまざまな過去の表現		予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する
第21回	さまざまな未来の表現		予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する
第22回	自分のことを話すために使う表現		予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する
第23回	条件法		予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第24回	接続法		予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する
第25回	強調構文		予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第26回	プログラム冊子のフランス語をよむ		予習:動詞をまとめておく 復習:フランス語文を再読しておく
第27回	オペラの歌詞を読む1		予習:該当オペラを視聴しておく 復習:歌詞を読み、内容を理解する
第28回	オペラの歌詞を読む2		予習:該当オペラを視聴しておく 復習:歌詞を読み、内容を理解する
第29回	後期のまとめ		予習:動詞をまとめておく 復習:自分のことを説明できるようにする
第30回	まとめと小テスト		予習:動詞の使い方を確認する 復習:間違えた部分を見直す

						2019年	度 東	邦音楽大学	大学院	
科目名(クラス) アンサンブル表現研究A(伴奏法)			開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1•2		
担当教員		田中 梢	履修対象•条件	ピアノ領域科目						
【授業計画の	概要】			•						
身に着ける。	より高度なアンサンブルの技術を学ぶ。歌の伴奏では言葉と音楽を深く掘り下げることで伴奏の意味を理解し伴奏の技術を 身に着ける。 演奏会へ向けて準備する中で伴奏に関する様々なテクニックを身に着け、ソリストたちとの音楽つくりをする。									
【授業の到達	目標】									
室内楽奏者の基	基本を身	に着ける。1つの -	チクルスを読み込み	弾きこみソリス	トと音楽	そを作り上げる	3 。			
【成績評価の	方法】									
平常授業での参	演奏会での演奏評価50% 平常授業での参加度・貢献度50%									
【授業計画の	内容】									
月	ガイダ	ンスータ内必多	者の文献を読みな	内 容 		====================================)			
4			する。演奏会へ向け)		
5										
6										
7			売みながら伴奏の基 いを読み込み演習		-					
8		へ向けてソリス		, - 0						
9										
10										
11										
12										
1	院一口		売みながら伴奏の♪ 伴奏曲を演習する ゚゚する。		-63					
2										
3										

						2019年	度 東	邦音楽大学	大学院	
科目名(クラ)	ス)	アンサンブル (ピアノアンサン		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1•2	
担当教員		田中 梢	履修対象·条件	ピアノ領域科	1					
【授業計画の	【授業計画の概要】									
ピアノアンサンフ	より高度なアンサンブルの技術を学ぶ。 ピアノアンサンブルをより深く学習することで、音楽の深さと楽しさを知り味わう。 ピアノの入った室内楽を経験することで室内楽に必要な知識を身に着け音楽性を養う。									
【授業の到達	【授業の到達目標】									
		アノアンサンブルを完 内楽曲を完成する。	成する。							
【成績評価の	方法	₹]								
	演奏会での演奏評価50% 平常授業での参加度・貢献度50%									
【授業計画の	内容	F]								
月				内 容	F					
4		′ダンスとパートナー を会に向けて演目を								
5										
6										
7		を会へ向けてピアノ を会へ向けて室内導			±る。					
8		内楽奏者たちとの合								
9										
10										
11										
12										
1		ルピアノアンサンフ い室内楽曲を探し								
2										
3										

							2019年	F度 東	邦音楽大学	大学院
科目	名(クラス)	鍵盤音導	美史研究		開講学期	通纸	単位数	4	配当年次	1•2
担	当教員	伊藤 制子	履修対象•条件		ピアノ領域科	目				
	【授業の	の概要】								
鍵盤音	鍵盤音楽史についての主要な文献を読みながら、鍵盤音楽の歴史についてより深く学びます。									
【授業の到達目標】										
鍵盤音楽史の専門文献の購読を通じて、より深い知識を得て、各自の演奏、研究にいかすことを目標にします。										
	【授業の「	「方法」と「形式」】								
講義と	寅習と併用し	、各自に発表、課題か	(課せられ	ıます。						
	【履修時の	「留意点」と「心得」】								
初回に	発表分担を決	そめますので、必ず出	席してくた	ごさい 。						
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】								
	数科書	なし			著			出版社		
孝	数科書				著者			出版社		
参	考文献	講義中に紹介します			著者	当等		出版社		
参	考文献				著有			出版社		
	【授業計画	·内容·準備学習】								
回数		授業	内	容					習•復習)	
第1回	授業概要の	説明					予習:シラバスを 复習:興味のある			
第2回	鍵盤音楽史	の基礎文献					予習∶各自文献を 复習∶文献の定義		-S	
第3回	鍵盤楽器の	歴史と変遷 オルガン	,			1	予習:オルガンに 复習:オルガンの	仕組みを	理解する	
第4回	鍵盤楽器の	歴史と変遷 チェンバ 	<u> </u>			1	予習:チェンバロについて調べる 復習:チェンバロの仕組みを理解する			
第5回	鍵盤楽器の	歴史と変遷 ピアノ				1	予習:ピアノの歴史を調べる 復習:さまざまな種類のピアノを理解する			
## a 🗀	バッハとバロ	コック音楽			予習:バッハの奏 复習:バッハの様					

	【授業計画·内容·準備学習】				
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)			
第7回	イタリアとフランスのバロック鍵盤作品	予習:クープラン、スカルラッティについて調べる 復習:バロック時代の様式について理解する			
第8回	モーツァルトと古典派の周辺	予習:モーツアルトの鍵盤作品について調べる 復習:モーツァルトの様式について理解する			
第9回	ベートーヴェン1	予習:ベートーヴェンの鍵盤作品について調べる 復習:ベートーヴェンの様式を理解する			
第10回	ベートーヴェン2	予習:ベートーヴェン研究について調べる 復習:最新の研究について知識を得る			
第11回	シューベルト	予習:シューベルトの生涯を調べる 復習:シューベルトの主要作を理解する			
第12回	シューマン	予習:シューマンの生涯を調べる 復習:シューマンの主要作を理解する			
第13回	ショパン研究の現在1	予習:ショパンについて調べる 復習:ショパンの奏法について知る			
第14回	ショパン研究の現在2	予習:ショパンの影響について調べる 復習:ショパンの最新研究について知る			
第15回	前期のまとめ	予習:これまでに読んだ文献を見直す 復習:重要事項を再度見直す			
第16回	後期の概要説明	予習:シラバスを読んでおく 復習:興味のあるテーマについて調べる			
第17回	リストとその周辺1	予習:リストの生涯を調べる 復習:リストの主要作を理解する			
第18回	リストとその周辺2	予習:リストとその影響について調べる 復習:リスト以後の奏法について知る			
第19回	ロシアピアノ音楽1	予習:チャイコフスキーについて調べる 復習:チャイコフスキーの主要作を理解する			
第20回	ロシアピアノ音楽2	予習:ラフマニノフのピアノ曲について調べる 復習:ラフマニノフの奏法について知る			
第21回	フランス近代音楽1	予習:フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルの主要作について調べる 復習:近代フランスの主要作品について知る			
第22回	フランス近代音楽2	予習:プーランクについて調べる 復習:プーランクの主要作について理解する			
第23回	新ウィーン楽派	予習:新ウィーン楽派の歴史を調べる 復習:無調、12音技法を理解する			
第24回	ピアノコンクールとその歴史	予習:ショパンコンクールの歴史を調べる 復習:日本のコンクールについて調べる			
第25回	現代のピアノ奏法	予習:バルトーク、ケージらの作品を調べる 復習:プリアードピアノついて確認する			
第26回	現代音楽とピアノ	予習:現代音楽史を見直す 復習:重要事項を確認			
第27回	アレクサンダーテクニックと身体論	予習:アレクサンダーテクニックについて調べる 復習:身体論を再度読んでおく			
第28回	各自の研究テーマについての文献発表1	予習:発表の準備 復習:重要事項の見直し			
第29回	各自の研究テーマについての文献発表2	予習:発表の準備 復習:重要事項を確認			
第30回	まとめ	予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認			

							2019年	度 東	邦音楽大学	大学院
科目	名(クラス)	作品研究A(バ	ロック・さ	ī典期〕	開講学期	通生	単位数	4	配当年次	1
担	当教員	伊藤 制子 履修対象・条件		ピアノ領域必	修					
	【授業の	の概要】								
バロック	バロック、古典派音楽の鍵盤作品、さらに鍵盤音楽の演奏スタイルについての多角的に研究します。									
	【授業の到達目標】									
バロック	7、古典派の釒	建盤作品についてのタ	印識を深	め、各自の流	寅奏、研究に	役立 ⁻	てることを目標に	こします。		
	【授業の	「方法」と「形式」】								
講義と	学生の発表を	併用します。								
	【履修時の	「留意点」と「心得」】								
初回に	発表の分担を	と決めますので、必ず	出席して	ください。						
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】								
	数科書	なし			著者			出版社		
孝	数科書				著者			出版社		
参	考文献	講義中に紹介します			著者			出版社		
参	考文献				著者			出版社		
	【授業計画	·内容·準備学習】								
回数		授業	内	容					習•復習)	
第1回	前期の概要	説明					予習:シラバスを記 復習:興味のある			
第2回	バロック、古典派を学ぶための文献						予習:各自文献を 復習:主要文献の			
第3回	楽譜につい	ての基礎知識				- 1	予習:各自楽譜を 復習:楽譜の選び	方を確認		
第4回	バロック時代	たとは何か				1	予習:バロック音楽史の確認 復習:バロック期の鍵盤楽器を理解する			
第5回	バッハの生活	涯と作品 				- 1	予習: バッハの生涯を調べる 復習: バッハの鍵盤作品の特徴を知る			
	プロスタイプ アジェ 音律について調べておく 復習: 平均律の特徴を理解する									

	【授業計画·内容·準備学習】				
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)			
第7回	イタリア、フランスのバロック鍵盤作品	予習:スカルラッティ、クープランについて調べる 復習:スカルラッティのソナタの特徴を理解する			
第8回	古典派の概要	予習:古典派音楽史を調べる 復習:古典派のスタイルを理解する			
第9回	モーツァルトのソナタ	予習:モーツァルトの生涯を調べる 復習:ソナタのスタイルを理解する			
第10回	モーツァルトの変奏曲と協奏曲	予習:協奏曲のスタイルを調べる 復習:モーツァルトの協奏曲の特徴を知る			
第11回	ベートーヴェンの概要	予習:ベートーヴェンの生涯を調べる 復習:ベートーヴェンの作曲語法を知る			
第12回	ベートーヴェンのソナタと変奏曲	予習:ソナタ形式の特徴を知る 復習:ベートーヴェンの変奏曲の特徴を知る			
第13回	ベートーヴェンのピアノ協奏曲	予習:ベートーヴェン時代のピアノについて知る 復習:ベートーヴェンの協奏曲の特徴を知る			
第14回	前期のまとめ1	予習:前期の事項の確認 復習:時代ごとの鍵盤作品の特徴をまとめる			
第15回	前期のまとめ2	予習:前期の事項の確認 復習:時代ごとの鍵盤作品の特徴をまとめる			
第16回	後期の概要説明	予習:シラバスを読んでおく 復習:興味のあるテーマについて調べる			
第17回	演奏研究の現在	予習:音楽文献目録を調べる 復習:最近の演奏研究を理解する			
第18回	鍵盤楽器と演奏研究	予習:音楽文献目録を調べる 復習:鍵盤楽器研究を理解する			
第19回	ロシアのピアノ演奏	予習:ロシアのピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する			
第20回	フランスのピアノ演奏	予習:フランスのピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する			
第21回	トイツ、オーストリアのピアノ演奏	予習:ドイツ、オーストリアピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する			
第22回	往年の名ピアニスト1	予習:往年のピアニストについて調べる 復習:戦前の演奏スタイルを理解する			
第23回	往年の名ピアニスト2	予習:往年のピアニストについて調べる 復習:戦前の演奏スタイルを理解する			
第24回	チェンバロ、オルガンの歴史的演奏	予習:主要な奏者を調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する			
第25回	日本の洋楽史とピアノ演奏	予習:日本の洋楽史を調べる 復習:洋楽導入期の演奏について知る			
第26回	戦後のピアニスト1	予習:戦後のピアニストについて調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する			
第27回	戦後のピアニスト2	予習:戦後のピアニストについて調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する			
第28回	各自の研究についての発表	予習:発表準備 復習:重要事項の確認			
第29回	各自の研究についての発表	予習·発表準備 復習:重要事項の確認			
第30回	後期のまとめ	予習:後期の事項の見直し 復習:バロック、古典派鍵盤音楽史の再確認			

							2019年	F度 東	邦音楽大学	大学院
科目	名(クラス)	作品研究B(ロマン期!	以降)	開講学其	通	年 単位数	4	配当年次	2
担	当教員	遠山 菜穂美 履修対象・領		対象·条件	ピアノ領域	アノ領域科目				
	【授業の概要】									
		テーマ周辺からテー 、後期はより実践的に							は初回の授業	で相
	【授業	の到達目標】								
作品硕	作品研究の手法を身につけ、修士論文の中で活用することができる。									
্ৰু ব্যব্ <u>ব</u>		方法」と「形式」】								
) 関百、か	演習、および個人指導									
	【履修時の	「留意点」と「心得」]							
	各自、修士論文の研究テーマと関連づけて、研究したい作品を決めておくこと。また、発表の際には要点をまとめたレジュメを用意してください。									
	【成績評価の	の「方法」と「基準」]							
研究成:	果を示すレジ	ュメ等の発表・提出	70%、その	他の授業内	評価(研究	姿勢等	等)30%を基準に糸	総合的に	評価する。	
孝	枚科書					者等		出版社		
	枚科書					者等		出版社	<u> </u>	
	考文献 ————————————————————————————————————					者等 		出版社		
· 参	考文献	· 中央 淮供尚羽	l		1	者等		出版社		
	【按耒訂画	·内容·準備学習】								
回数		授業		容			準備 予習:各自の修士		習・復習)	ずけ
第1回	テーマの選り	定(1)					ででは、研究したい作 復習:テーマに基	品を決め	ておく。	
第2回	テーマの選択	定(2)					同上			
第3回	作品研究と	発表(1)					予習:作品を研究 復習:研究成果を			
第4回	作品研究と	—————— 発表(2)					同上			
第5回] 作品研究と発表(3)						同上			
第6回	作品研究と	——————— 発表(4)		同上						
第7回	作品研究と	—————— 発表(5)					同上			
第8回	作品研究と	 発表(6)					同上			

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	作品研究と発表(7)	同上
第10回	作品研究と発表(8)	同上
第11回	作品研究と発表(9)	同上
第12回	後期のテーマの設定(1)	予習:各自の修士論文の研究テーマと関連づけて、研究したい作品を決めておく。 復習:テーマに基づいて作品研究を進める。
第13回	後期のテーマの設定(2)	同上
第14回	後期のテーマの設定(3)	同上
第15回	前期のまとめ	予習:ここまでの研究成果をまとめておく。復習: 研究成果を修士論文に活用する。
第16回	作品研究と修士論文への活用	予習:作品を研究し、レジュメを作成する。 復習:研究成果を修士論文に活用する。
第17回	作品研究と修士論文への活用	同上
第18回	作品研究と修士論文への活用	同上
第19回	作品研究と修士論文への活用	同上
第20回	作品研究と修士論文への活用	同上
第21回	作品研究と修士論文への活用	同上
第22回	作品研究と修士論文への活用	同上
第23回	作品研究と修士論文への活用	同上
第24回	作品研究と修士論文への活用	同上
第25回	作品研究と修士論文への活用	同上
第26回	作品研究と修士論文への活用	同上
第27回	作品研究と修士論文への活用	同上
第28回	作品研究と修士論文への活用	同上
第29回	作品研究と修士論文への活用	同上
第30回	まとめ	予習:作品研究が修士論文に十分活用できたか どうか振り返る。復習:研究成果を今後の実践に 生かす。

					2019年	度東	邦音楽大学	大学院		
科目名(クラス)	アンサンブル表 ³ 【管弦打導		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1		
担当教員	澤敦	履修対象•条件	管弦打楽器領	域科目						
【授業の	の概要】									
行う。 研究する楽曲につい	ンサンブル枠に限定 ・ては、演奏形態・編成 管弦打楽器によるア	戈の多様性から考慮	し、編曲作品、	委嘱作	品が中心とな					
【授業の到達目標】										
授業内容を修得し、研究領域に於ける方向性と可能性を更に探求する。										
【授業の「方法」と「形式」】										
演習形式										
【履修時の「留意点」と「心得」】										
指導教員からの一方通行ではなく、学生参加型、更に学生主体型の授業となることを目指してほしい。 授業時間だけでなく、毎回の授業に備えての「事前練習」「配付資料の研究」にも万全を期してほしい。										
【成績評価	の「方法」と「基準」】									
授業に取り組む姿勢 授業内容の理解度と										
教科書	教員から随時配布[楽譜〕	著者	等		出版社				
教科書			著者	等		出版社				
参考文献	教員から随時レジュ	メで配布	著者	等		出版社				
参考文献			著者	·等		出版社				
【授業計画	·内容·準備学習】		_							
回数	授 業	内 容			準備	学習(予	習•復習)			
第1回 本授業の内	容∙目標等、概要説明	月		各招	受業の準備学	習をする	3			
第2回 管弦打楽器	団 管弦打楽器によるアンサンブルの演奏表現研究						同上			
第3回			同上							
第4回		同上			同上					

同上

同上

同上

同上

同上

同上

同上

同上

第5回

第6回

第7回

第8回

	【授業計画·内容·準備学習】				
回数	授業内容	準備学習(予習·復習)			
第9回	同上	同上			
第10回	同上	同上			
第11回	同上	同上			
第12回	同上	同上			
第13回	同上	同上			
第14回	同上	同上			
第15回	同上	同上			
第16回	管弦打楽器に鍵盤楽器、声楽等を加えた 複合アンサンブル演奏表現研究	同上			
第17回	同上	同上			
第18回	同上	同上			
第19回	同上	同上			
第20回	同上	同上			
第21回	同上	同上			
第22回	同上	同上			
第23回	同上	同上			
第24回	同上	同上			
第25回	管弦打楽器によるアンサンブルの指導法研究	同上			
第26回	同上	同上			
第27回	同上	同上			
第28回	同上	同上			
第29回	同上	同上			
第30回	本科目の総括	学んだことを振り返り実践する			

								2019年	度東	邦音楽大学:	大学院
科目:	名(クラス)	作品研究(室内第	髪)【管弦	打領域】	開講学	芝期 通	鱼年	単位数	4	配当年次	1
担	当教員	大久保 淑人	履修为	対象·条件	管弦打领	頁域科目					
	【授業の	D概要】									
		て、その楽器がアン† Iし発表する。	ナンブル	の中でどうい	う位置を	と占める	のか	という事を考	慮しつつ	、各々が演奏	€会の
【授業の到達目標】											
演奏の	過程で、瞬時	れ編成の異なる室内 に相手の音程感、リスな音楽の感覚を養うる	ズム感、	音楽感を聴る			るよ	うにする。			
	【授業の「	方法」と「形式」】									
あくまで	も実技を主体	はとする。室内楽の知	識を踏ま	きえて実技の	中で体駒	食する。					
		「留意点」と「心得」】									
実際に	音を出すこと	こよって室内楽を学び	が、理解で	することを心	がける。						
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】									
・室内楽に対しての心構え ・演奏の内容 ①自分の領域の完成の度合い ②均衡と融合のバランス ③作曲家の意をくんでいるか 等											
孝	枚科書	各自の選曲によるス	コア、パ	一ト譜		著者等			出版社		
孝	数科書	各自の選曲によるス	コア、パ	一 ト譜		著者等			出版社		
参	考文献	バッハ平均律48フー 管弦楽法	ガの研究	Ե Ն		著者等	福本ウォル	下正 ルターヒ [°] ストン	出版社	音楽之友社 "	
参	考文献	楽式論 二声対位法				著者等		ī真礼生 7友次郎	出版社	// //	
	【授業計画	·内容·準備学習】									
回数		授 業	内	容			準備学習(予習·復習)				
第1回	オリエンテー	-ション					「室内楽とは何か」を考え自分なりの結論を 出す				
第2回		する作品の提示(バロ成、人選の検討	コック、古	「典からロマン	')		作品の選択 スコアの研究				
第3回	名自の研究する作品の提示(バロック、古典からロマン) スコア読みに取りかかる							スコアの譜面を読む音源を聴く			
第4回 作品の提示 スコアから和声の流れ、曲の構成、作曲者の意図等を読み取っていく						スコアの譜面を読む 和声、対位法に関してある程度の知識を持つ					
第5回	回作品の提示						スコアの譜面読みの完成音源の研究				
第6回	作品分析、作品の楽式、楽器への知識を深める(楽器の機能、奏法、音色等を理解する)							同上			
第7回	作品分析、沿	寅奏の前段階として作	品へより	り一層の理角	羅を深め⁻	ていく		原を聴き、それ が聞きとれる		楽器の記譜さ	きれた

正確な演奏ができるよう練習する

第8回 作品演奏、研究作品の自分のパートの練習に取り組む

	【授業計画·内容·準備学習】				
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)			
第9回	作品演奏、いくつかの独奏楽器がそれぞれ対等、対立的な音楽内容 をもっていることを理解する	内容の正しい理解を心がける			
第10回	演奏上の講義、楽器と楽器の音が混乱に陥ることなく、バランスを考 えながら演奏する	聞きとる能力が育つよう努力する 音源の研究			
第11回	演奏上の講義、前回の授業内容を理解し深めていく	授業内容の確認音源を聴く			
第12回	演奏上の講義、室内楽における楽器と楽器との快い対立的対話を熟 知する	授業内容を深く考え、真正な室内楽とは何で あるかを理解する努力をする			
第13回	今までの授業内容のより一層の深い理解を演奏に応用していく	音楽的表現への努力 音源、スコアの研究			
第14回	音の均衡を失わずに自己のパートを音楽的に表現する	同上			
第15回	室内楽演奏発表会の実施 各々の責任をしっかりと果たす	同上			
第16回	室内楽の編成について	室内楽の種類について各自資料をあたり調べる 三月の研究発表演奏会にむけて室内楽の編成 について研究する			
第17回	二重奏曲について(I)バイオリン二本によるこの形式は、シュポアが最も愛用した形式であり数多くの名曲があるが、その他の独奏管弦楽器とピアノによる多くの名曲についても研究する				
第18回	同上	各自の楽器に相当する二重奏曲について研究 する 各自の楽器に適した音源を聴く			
第19回	二重奏曲について(II)ミハイル・ハイドンが貴族に依頼されたバイオリンとヴィオラの二重奏曲6曲中、2曲を病気の為、モーツァルトが代わりに作曲した、この6曲を聴き比べてどの様な違いがあるか考える	左記の6曲中、モーツァルトの作曲した2曲が 音楽史的に傑出した名曲であるのはなぜか 各自研究する			
第20回	同上	6曲のスコアの研究 6曲の音源の研究			
第21回	同上	同上			
第22回	三重奏曲について(I)楽器の編成としてバイオリン、ヴィオラ、チェロは稀であるがモーツァルトの変ホ長調は逸品である。ピアノ、バイオリン、チェロは三重奏曲の編成として最も数多くの成功した作品があり、これらについて研究する	左記の作品について、できるだけ多くの作品 に接する スコア、音源の研究			
第23回	同上	同上			
第24回	三重奏曲について(II)ブラームス、ベートーベンのピアノ、クラリネット、チェロによるトリオ、ブラームスのピアノ、バイオリン、ホルンによるトリオの研究	左記の3曲についての資料を集め、研究する スコア、音源の研究			
第25回	同上	同上			
第26回	四重奏曲について(I)あらゆる室内楽の形式の中で、最も優れたものとされているバイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏曲について、特にベートーベンの17曲(大フーガを含む)についての研究	左記の作品についての資料を集め研究する (音楽的な面からもアプローチする) スコア、音源の研究			
第27回	同上	同上			
第28回	四重奏曲について(Ⅱ)モーツァルト、ベートーベン、ブラームスのバイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノによるピアノ四重奏曲及びモーツァルトのフルート、オーボエ、ホルンと弦楽の編成による四重奏曲についての研究				
第29回	同上	同上			
第30回	室内楽演奏発表会の実施	室内楽の知識や理論を実技においていかに 有効に活用することができるか熟思する			

								2019年	度 東	邦音楽大学:	大学院
科目:	名(クラス)	管弦楽	史研究		開講学期	通	.年	単位数	4	配当年次	1•2
担	温当教員 遠山 菜穂美 履修対象・条件		管弦打領均	达打領域科目							
	【授業の概要】										
から研究	究する。授業/	までの管弦楽の歴5 は学生の発表および 育の現場でどのように	ディスカ	ッションを主ん	体とする。		関れ	る管弦楽曲	につい	て歴史と理論	の両面
	【授業	の到達目標】									
管弦楽の歴史を踏まえて、各自の研究テーマに関わる管弦楽曲について歴史と理論の両面から説明できる。 研究内容を音楽教育の現場で活用する力をつける。											
	【授業の「	方法」と「形式」】									
演習	演習										
	【履修時の	「留意点」と「心得」】									
・ 各自の研究テーマなどと関連づけて、発表したいテーマをあらかじめ考えておくこと。発表では要点をまとめたレジュメを用意 してください。											
	【成績評価の「方法」と「基準」】										
発表60%、ディスカッションへの貢献度40%											
孝	枚科書					者等			出版社		
孝	女科書					者等			出版社		
参:	考文献					者等			出版社		
参	考文献					者等			出版社		
	【授業計画	•内容•準備学習】									
回数		授業	内	容			Z 33			習・復習) ーマと関連づい	⊥
第1回	管弦楽の歴	史(1)(概説)					表した	といテーマを	考えておく		
第2回	管弦楽の歴	史(2)(概説)					同上				
第3回	各自のテー ⁻	マの決定					る。			ン、レジュメを作)まとめをする。	
第4回	第4回 発表とディスカッション(1)						同上				
第5回	Ř5回 発表とディスカッション(2)						同上				
第6回	発表とディス	ニカッション(3)					同上				
第7回	発表とディス	ムカッション(4)					同上				
第8回	発表とディス	スカッション(5)					同上				

	【授業計画·内容·準備学	習】			
回数	授	業	内	容	準備学習(予習・復習)
第9回	発表とディスカッション(6)				同上
第10回	発表とディスカッション(7)				同上
第11回	発表とディスカッション(8)				同上
第12回	 発表とディスカッション(9)				同上
第13回	後期テーマの考察				予習:研究テーマと関連づけて、発表したいテーマを考えておく。 復習:テーマが決まったら研究を開始する。
第14回	後期テーマの決定				同上
第15回	前期のまとめ				予習:ここまでの研究成果を振り返る。 復習:後期の発表に備えて研究を開始する。
第16回	管弦楽の歴史3(概説)				予習;各自の修士論文のテーマと関連づけて、発表したいテーマを考えておく。 復習:決定したテーマについて研究を開始する。
第17回	管弦楽の歴史4(概説)				同上
第18回	発表とディスカッション(10)				予習:テーマについて研究し、レジュメを作成する。 復習:補足・修正して研究のまとめをする。
第19回	発表とディスカッション(11)				同上
第20回	発表とディスカッション(12)				同上
第21回	発表とディスカッション(13)				同上
第22回	発表とディスカッション(14)				同上
第23回	発表とディスカッション(15)				同上
第24回	発表とディスカッション(16)				同上
第25回	発表とディスカッション(17)				同上
第26回	発表とディスカッション(18)				同上
第27回	発表とディスカッション(19)				同上
第28回	発表とディスカッション(20)				同上
第29回	発表とディスカッション(21)				同上
第30回	まとめ				予習:ここまでの研究成果を振り返る。 復習:論文執筆に備えて研究を進展させる。

科目名(クラス)	作品研究A-I	開講学期	通年	単位数	各 2	配当年次	1•2	
担当教員	山崎 明美	美 履修対象·条件						
【授業の	の概要】							

日本歌曲演奏における日本語発音の在り方及び自然な表現法を、実際の歌曲演習を行う中で講義する。さらに詩の解釈、 朗読を研究し、詩人、及びその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法 についての研究を促す。

今年度は、1900年以降に生まれた作曲家の作品を扱う。

【授業の到達目標】

日本歌曲の成立、発展の歴史を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を持つことを目標とする。 日本語演唱に必要な舞台における日本語発音の習得、日本歌曲における文学との関わりを多岐にわたる参考文献への知 識を持って日本歌曲演奏を行うことが本講義の到達目標である。

【授業の「方法」と「形式」】

学生による研究発表とし、資料作成、発表(演奏を含む)を行う。資料についての助言、及び演奏学上の教授を行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自が積極的に課題に取り組むことが必要である。それぞれの課題を演奏するだけでなく、研究発表として捉え、充分な準 備をし、資料作成すること。楽譜は各自購入のこと。購入楽譜は授業内で指示する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

A. 授業内での研究発表(40%)、B. 資料作成(30%)、C. 試演会(30%)における研究発表、演奏、プログラム作成により 評価する。

A. B. Cそれぞれの要素が必要である。

教科書		著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	
【授業計画	•内容•準備学習】			

回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	授業についてのオリエンテーション 日本歌曲史概説(1)	復習: 日本歌曲の成立、当時の音楽事情についての知識を得ること、及び 大正期、昭和期における日本歌曲の発展、時代的背景を知ること。
第2回	日本語歌唱法·朗読	復習:歌唱の際の日本語発音の基礎を、音声学の研究、作曲家による研究、歌手による研究を知識として得たうえで理解し、美しい日本語の発音を習得。講義内で配布した資料を確実な知識とする。
第3回	清瀬保二の歌曲作品	予習:清瀬保二について研究。その作曲活動、教育活動を理解し、歌曲作品をいかに表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第4回	橋本国彦の歌曲作品	予習:橋本国彦について研究。その作曲活動、教育活動を理解し、多彩な作品をそれぞれどのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第5回	橋本国彦の歌曲作品(2)	第4回の講義に続き、橋本国彦歌曲作品を研究する。発表担当以外の学生も、各自研究すること。
第6回	貴志康一の歌曲作品	予習: 貴志康一について研究。その作曲活動、演奏活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習: 日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第7回	越谷達之助の歌曲作品	予習.越谷達之助について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現 するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第8回	平井康三郎の歌曲作品(1)「日本の笛」(全21曲)	予習: 平井康三郎について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習: 日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。 「日本の笛」の理解を深める。

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	平井康三郎の歌曲作品(2)「日本の笛」(全21曲)	予習:第8回の講義に引き続き「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第10回	平井康三郎の歌曲作品(3)「日本の笛」(全21曲)	予習:第9回の講義に引き続き「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第11回	平井康三郎の歌曲作品(4)「日本の笛」(全21曲)	予習:第10回の講義に引き続き「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第12回	平井康三郎の歌曲作品(5)	予習:北見志保子の詩による3曲の歌曲作品の研究。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第13回	高田三郎の歌曲作品「啄木短歌集」	予習:高田三郎について研究。また、石川啄木についての理解を深め、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第14回	試演会に向けてリハーサル	前期講義のまとめとして、グランツザールでの試演会を行うが、本講義ではグランツザールを使ってリハーサルを行う。演奏会プログラムを作成する。
第15回	試演会(1)	前期講義のまとめとして、グランツザールでの試演会を行う。演奏の実際 を経験することで、その演奏技術、音楽性を身に付ける。
第16回	日本歌曲史概説(2)	復習:第二次世界大戦後の日本歌曲についての知識を得る。
第17回	別宮貞雄の歌曲作品 (1) 歌曲集 「淡彩抄」(全10曲)	予習:別宮貞雄について研究。また詩人大木敦夫を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第18回	別宮貞雄の歌曲作品(2) 歌曲集 「淡彩抄」(全10曲)	予習:第17回の講義に引き続き「淡彩抄」にとりくむ。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第19回	別宮貞雄の歌曲作品(3) 歌曲集「二つのロンデル」	予習:歌曲集「二つのロンデル」に取り組む。また、加藤周一についての知識を得る。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第20回	中田喜直の歌曲作品(1)「六つの子どもの歌」	予習:中田喜直について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 また、西条八十、小川未明、竹久夢二、山村暮鳥、野口雨情、三木露風についての知識を得る。
第21回	中田喜直の歌曲作品(2)「六つの子どもの歌」	予習:第20回の講義に引き続き「六つの子どもの歌」に取り組む。 復習:それぞれの詩人について理解し、表現の道を探る。
第22回	中田喜直の歌曲作品(3)「マチネ・ポエティックによる四つの歌曲」	予習:マチネ・ポエティックについて理解する。 復習:それぞれの詩人についての理解を深め、表現の道を探る。
第23回	團伊玖磨の歌曲作品(1)「五つの断章」	予習:團伊玖磨についての知識を得る。 詩人北原白秋についての知識を得る。 復習:北原白秋の詩を理解し、日本語の扱い方、旋律線の特賞を理解し、 表現の道を探る。
第24回	團伊玖磨の歌曲作品(2)「五つの断章」	復習:第23回の講義に引き続き歌曲集「五つの断章」に取り組む。
第25回	團伊玖磨の歌曲作品(3)「わがうた」	予習:歌曲集「わがうた」についての知識を得る。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第26回	大中恩の歌曲作品(1)歌曲集「五つの抒情歌」	予習:大中恩について研究。また詩人大木敦夫を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第27回	大中恩の歌曲作品(2)歌曲集「五つの抒情歌」	予習:第26回の講義に引き続き歌曲集「五つの抒情歌」に取り組む。 復習:それぞれの詩人について理解し、表現の道を探る。
第28回	大中恩の歌曲作品(3)	予習:大中恩の歌曲作品を引き続き、研究する。 復習:膨大な大中歌曲作品の中から、適宜課題を選択すること。
第29回	試演会に向けてのリハーサル	予習:後期課題の演奏に取り組む。 復習:演奏の完成に向けての演習を積む。
第30回	試演会(2)	後期講義のまとめとして、非公開での試演会を行う。演奏の実際を経験することで、その演奏技術、音楽性を身に付け、この講義の集大成とする。

								2019年	度 東	邦音楽大学ス	大学院		
科目:	名(クラス)	作品研究B- I	•Ⅱ(外	国歌曲)	開講学	期通	年	単位数	各 2	配当年次	1•2		
担	担当教員 片岡 啓子 履修対象・条件 声楽領域科目												
	【授業の概要】												
・歌曲の演奏表現を主に詩的解釈、歴史的変遷をイタリア歌曲を課題として研究・実践していく。 ・前期はベルカント期の作曲家作品とヴェルディまでの作品を課題とする。													
	・ 後期はそれ以降の作曲家による近代歌曲を課題とする。												
o° 11 ± 2	【授業の到達目標】 ・ベルカントから近代までの歌曲を演奏し、又他者の演奏を聞く事により、イタリア音楽に対する深い理解を得る。												
・ベルカントから近代までの歌曲を演奏し、又他者の演奏を聞く事により、イタリア音楽に対する深い理解を得る。 ・将来の演奏に活用する。													
	【授業の「方法」と「形式」】												
・各自に	・各自に課題の曲を決め、演奏する者は演奏し、それ以外は聴く形式。												
	【履修時の	「留意点」と「心得」】											
	・演奏実践を通しての学習が主になるので事前の準備を良くする。 ・発表会には必ず参加の事(11月に行う)。												
	【成績評価の	の「方法」と「基準」)											
	授業における。 での実践・到達	積極性とテーマに取り約	む努力((50%)									
光衣云	での美成・到達	主 奇(30%)											
孝	女科書	曲決めの際に、その都	度提示す	る		著者等			出版社				
孝	女科書	主に楽譜は、リコルディ	, th. A A	- 海	+- +-	著者等			出版社				
	考文献 —————	ドレミ出版等	1 TL、± E	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	. 火工	著者等			出版社				
参 [·]	考文献 					著者等			出版社				
	【授耒訂曲 I	·内容·準備学習】					ı	144 LH		 (5)			
回数		授 業	内	容			準備学習(予習・復習)						
第1回	曲決めの為 (各自、自由						試唱	をふり返る					
第2回	前期課題の (ロッシーニ 時代を選ぶ	、ベッリーニ、ドニゼッ	ティ、ヴ	ェルディから	選ぶが更	に前の	読譜	2					
第3回	前期課題の	研究①						読んでくる の理解					
第4回	前期課題の	研究②						読んでくる の理解					
第5回	可 前期課題の研究③							読んでくる の理解					
第6回	前期課題の	研究④		詩を読んでくる 原語の理解									
第7回	前期課題の	研究⑤					進度	によっては	課題を追	加していく			
/** o 🗔	**************************************							**					

進度によっては課題を追加していく

第8回 前期課題の研究⑥

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	まとめ	前期課題のまとめ
第10回	まとめ	前期課題のまとめ
第11回	後期の課題曲を決める① (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第12回	後期の課題曲を決める② (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第13回	後期の課題曲を決める③ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第14回	後期の課題曲を決める④ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第15回	後期の課題曲を決める⑤ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第16回	後期の課題曲を決める⑥ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	原語の理解詩を読んでくる
第17回	後期の課題曲を決める⑦ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	詩を読んでくる
第18回	後期の課題曲を決める® (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第19回	後期の課題曲を決める⑨ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第20回	後期の課題曲を決める⑩ (トスティ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ=フェラーリ、レスピーギ、ポンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第21回	最終的な演奏会への曲を選ぶ	暗譜 資料作成
第22回	まとめ	暗譜 資料作成
第23回	まとめ	暗譜 資料作成
第24回	発表会の通し練習	暗譜 資料作成
第25回	研究発表会	発表をふり返る
第26回	研究発表会の講評と課題曲を選ぶ	発表をふり返る
第27回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究①	楽曲を研究する
第28回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究②	楽曲を研究する
第29回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究③	楽曲を研究する
第30回	まとめ	授業をふり返る

科目名(クラス)	作品研究Cー I・II (オペラ)		開講学期	通年	単位数	各 2	配当年次	1•2
担当教員	片岡 啓子	履修対象•条件	声楽領域科目	1				
【授業の	の概要】							

・オペラは時代と作曲家により大きく異なる歌唱様式持つが、より高度な表現力・技術・解釈の実践的研究。・他者の演奏を聞き、より多くのオペラを知る。

【授業の到達目標】

・オペラは自分の声が、どのような役柄に合っているか、又その役柄を演奏する上で必要な準備・技術・解釈などを正確に 知り、将来のレパートリー作りに活用する。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各自に課題曲を決め、発表の際には、オペラの内容・背景と実践をする。
- 本講座ではオペラアリアのみを課題とする。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- 演奏実践を通しての学習が主になるので事前の準備を良くする。
- ・研究発表会には必ず参加の事(10、11月に行う)。

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・通常の授業時における積極性、努力(50%)
- ・研究発表会での実践・到達等(50%)

教科書]	著者等	出版社
教科書		著者等	出版社
参考文献	曲決めの際に提示する	著者等	出版社
参考文献		著者等	出版社

回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	各自のレパートリーを知るために試唱する (前期はモーツァルトを含むロマン派オペラアリアを選ぶ)	試唱結果をふり返る
第2回	各自のレパートリーを知るために試唱する	試唱結果をふり返る
第3回	課題の実践研究	読譜
第4回	課題の研究①	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第5回	課題の研究②	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第6回	課題の研究③	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第7回	課題の研究④	進度によっては課題を追加していく
第8回	課題の研究⑤	内容理解の為の背景、物語等を調べる

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	課題の研究⑥	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第10回	課題の研究⑦	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第11回	課題の研究⑧	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第12回	課題の研究⑨	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第13回	後期の課題を選ぶ① (前期に学んだ時代以降、ヴェリズモ・近代オペラまでで選曲)	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第14回	後期の課題を選ぶ② (前期に学んだ時代以降、ヴェリズモ・近代オペラまでで選曲)	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第15回	後期の課題を実践する	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第16回	後期課題の研究①	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第17回	後期課題の研究②	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第18回	後期課題の研究③	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第19回	後期課題の研究④	進度によっては、新たな課題を提示していく 研究発表に向けて資料の作成
第20回	後期課題の研究⑤	暗譜 資料作成
第21回	後期課題の研究⑥	暗譜 資料作成
第22回	後期課題の研究⑦	暗譜 資料作成
第23回	研究発表会の為の実践①	暗譜 資料作成
第24回	研究発表会の為の実践②	暗譜 資料作成
第25回	発表会の通し練習	暗譜 資料作成
第26回	発表会	暗譜 資料作成
第27回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究 ①	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第28回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究 ②	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第29回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究 ③	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第30回	まとめ	年間をふり返る

								2019年	度 東	邦音楽大学	大学院
科目:	名(クラス)	アンサンブル表	現研究	(声楽)	開講学期	通	.年	単位数	2	配当年次	1•2
担	当教員	片岡 啓子	履修为	対象·条件	声楽領域科	目					
	【授業の	D概要】									
・音楽表	現上、重要な	は要素であるアンサン	ブルのホ	様式と歌唱に	こついて、演	技を含	含めて	での実践的研	开究。		
	【授業	の到達目標】									
・オペラ く。	の一部分では	はあるが、実践して(哥	炊唱∙内?	容理解∙演技)オペラとは	何か	! を	体験し、将来	に向けて	てより深く活用	してい
	【授業の「	方法」と「形式」】									
・オペラ	の重唱のアン	ノサンブル(特にモー <u>)</u>	ソアルトる	を中心にロマ	ン派等)						
	【履修時の	「留意点」と「心得」】									
・オペラ	アンサンブル	は共演者と協力し合	って準備 	して行う。							
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】									
)授業における	る取り組み方と試演会	き でのパ	フォーマンス		評価	する。	,	出版社		
	▲					者等			出版社		
	考文献				著	者等			出版社		
参	考文献				著	者等			出版社		
	【授業計画	·内容·準備学習】								_	
回数		授 業	内	容				準備!	学習(予	習∙復習)	
第1回	演目を決める	る為の試唱を行う					記唱	きふり返る			
第2回	演目の楽譜	等の作成準備					譜読	み			
第3回	第3回 音楽練習 譜読み						み				
第4回	第4回 音楽練習						譜読	み、原語理	解		
第5回	5回 音楽練習						譜読	み、原語理	解		
第6回	音楽練習						譜読	み、原語理	解		
第7回	音楽練習						譜読	み、原語理	解		
第8回	音楽練習						譜読	み、原語理	— — 解		

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授 業 7	内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	音楽練習		譜読み、原語理解
第10回	音楽練習		譜読み、原語理解
第11回	音楽練習		譜読み、原語理解
第12回	音楽練習		暗譜
第13回	音楽練習		暗譜
第14回	音楽のみの試演会		暗譜
第15回	演出付き研究		原語理解
第16回	演出付き研究		原語理解
第17回	演出付き研究		原語理解
第18回	演出付き研究		原語理解
第19回	演出付き研究		原語理解
第20回	演出付き研究		原語理解
第21回	演出付き研究		原語理解
第22回	演出付き研究		原語理解
第23回	演出付き研究		原語理解
第24回	演出付き研究		原語理解
第25回	演出付き研究		原語理解
第26回	演出付き研究		原語理解
第27回	試演会の為の練習		試演会への準備
第28回	試演会		試演会への準備
第29回			演奏をふり返る
第30回	 まとめ		授業をふり返る

								2019年	度 東	邦音楽大学:	大学院			
科目	名(クラス)	歌曲・オペ	う史研究	究	開講学期	通	i年	単位数	4	配当年次	1•2			
担	当教員	伊藤 制子 履修対象・条件		対象·条件	声楽領域科	目								
	【授業の	の概要】												
オペラタ	ートペラ史を概観し、歌唱スタイル、主要作品の特徴、また現代のオペラ界の現況などを学びます。													
	【授業	の到達目標】												
オペラに	こついての深	い知識を身につけ、濱	寅奏、研?	究に役立てる	ることを目的	としま	きす。							
	【授業の	「方法」と「形式」】												
講義、清	寅習、ディスカ 	」ッションを併用します	0											
	【履修時の	「留意点」と「心得」】												
初回に	課題の分担を	と決めますので、必ず	出席して	こください。										
	【成績評価の	の「方法」と「基準」】												
孝	枚科書	なし			著	者等			出版社					
孝	枚科書				著	者等			出版社					
参	考文献	講義中に紹介します			著	者等			出版社					
参	考文献			1	著	者等			出版社					
	【授業計画	·内容·準備学習】												
回数		授業	内	容						習•復習)				
第1回	年間計画の	説明						¹:シラバスを ¹:自分の発						
第2回	回 オペラを学ぶための文献									Į.	予習:各自文献を持参 復習:文献の概念を確認			
第3回 オペラの楽譜						予習:楽譜を各自持参 復習:自分の発表分担を確認								
		普												
第4回	オペラ劇場(普 の現在 : ヨーロッパ					復習	¦:劇場の概 ∤:劇場の特	要を調べ性を知る	ておく				
							復習 予習 復習		要を調べ 性を知る 要を調べ 性を知る	ておく				

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授 業 内	容	準備学習(予習·復習)
第7回	現代オペラと劇場		予習:現代オペラの歴史を調べておく 復習:現代の劇場文化を確認しておく
第8回	バロックオペラの世界1		予習:バロック音楽史を調べておく 復習:モンテヴェルディの特性を確認
第9回	バロックオペラの世界2		予習:ラモーについて調べる 復習:ラモーのオペラの特性を確認
第10回	ベルカントの歴史		予習:ベルカントの定義を調べる 復習:ベルカントオペラの特性を確認
第11回	往年の名歌手:ソプラノ		予習:カラス、テヴァルディについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第12回	往年の名歌手:メッゾ		予習:シミオナートについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第13回	往年の名歌手:テノール		予習:デルモナコ、コレッリについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第14回	往年の名歌手:バリトン		予習:バスティアニーニについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第15回	前期のまとめ		予習:前期の項目を見直す 復習:重要事項を確認
第16回	演出とは		予習:演出の定義を調べる 復習:演出の歴史を確認
第17回	現代の演出家1		予習:ゼッフィレッリについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第18回	現代の演出家2		予習:デッカーについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第19回	現代の演出家3		予習:カーセンについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第20回	個人発表:演出		予習:発表の準備 復習:取り上げた作品を再確認
第21回	個人発表:演出		予習:発表の準備 復習:取り上げた作品を再確認
第22回	歌曲の歴史:ドイツ		予習:ドイツ歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第23回	歌曲の歴史:フランス		予習:フランス歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第24回	歌曲の歴史:イタリア		予習:イタリア歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第25回	歌曲の歴史:日本		予習:日本歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第26回	オラトリオ、カンタータの歴史		予習:バッハのカンタータについて調べる 復習:バッハの主要作の特徴を理解する
第27回	現代の歌唱スタイル: 個人発表		予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第28回	現代の歌唱スタイル;個人発表		予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第29回	まとめと補足		予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認
第30回	まとめと補足		予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認

科目名(クラス)	作曲技法特別研究 I		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象•条件	作曲領域は必	必修。作曲]領域科目		-	
【授業の	【授業の概要】							

作曲を実践するにあたって、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の到達目標】

既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究 する。

【授業の「方法」と「形式」】

各自が持ち寄った曲を中心に、学生個々の技法に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

研究を各自が独自に行い、さまざまな視点による見解を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らない よう積極的な授業態度を希望する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

教科書	特になし	著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	

【授業計画·内容·準備学習】

回数	授 業 内	容	準備学習(予習·復習)
第1回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第2回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	見代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第3回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	見代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。事前の準備をしておく。
第4回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	見代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。事前の準備をしておく。
第5回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	見代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第6回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第7回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現	見代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。事前の準備をしておく。
第8回	後期ロマン派~近代音楽の書法および現		19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りなが

ら研究をする。事前の準備をしておく。

	【授業計画·内容·準備学習】		
回数	授 業 内	容	準備学習(予習・復習)
第9回	現代音楽の和声および対位法的書法の研	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第10回	現代音楽の和声および対位法的書法の研	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第11回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第12回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第13回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第14回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第15回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第16回	現代音楽の和声および対位法的書法の研	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第17回	現代音楽の和声および対位法的書法の研	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第18回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第19回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第20回	 現代音楽の和声および対位法的書法の码 	开究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第21回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリ) ポーランド、ベルギー等)	ア、イタリア、フランス、	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第22回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリ) ポーランド、ベルギー等)	ア、イタリア、フランス、	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第23回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリ) ポーランド、ベルギー等)	ア、イタリア、フランス、	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第24回	ロシアおよび北欧の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第25回	ロシアおよび北欧の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第26回	アメリカ大陸の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第27回	アメリカ大陸の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第28回	日本の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第29回	日本の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。
第30回	日本の前衛音楽		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。事前の準備を しておく。

科目名(クラス)	作曲技法特	寺別研究 Ⅱ	開講学期	通年	単位数	2	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象•条件	作曲領域は必修。作曲領域科目					
【授業の	の概要】							

作曲を実践するにあたって、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の到達目標】

既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究 する。

【授業の「方法」と「形式」】

各自が持ち寄った曲を中心に、学生個々の技法に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

研究を各自が独自に行い、さまざまな視点による見解を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らない よう積極的な授業態度を希望する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

教科書	特になし	著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	

	【授耒計画・内谷・準備学省】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第2回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第3回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家 による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りなが ら研究をする。事前の準備をしておく。
第4回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家 による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りなが ら研究をする。事前の準備をしておく。
第5回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第6回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第7回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家 による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りなが ら研究をする。事前の準備をしておく。
第8回	後期ロマン派〜近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家 による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りなが ら研究をする。事前の準備をしておく。

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第10回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第11回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第12回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第13回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第14回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第15回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第16回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第17回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第18回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第19回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第20回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第21回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、 ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第22回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、 ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第23回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、 ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第24回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第25回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第26回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第27回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第28回	日本の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第29回	日本の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第30回	日本の前衛音楽	既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし 現代音楽への影響や道筋等を研究する。

科目名(クラス)	管弦楽法表	現研究Ⅰ・Ⅱ	開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1.2
担当教員	荻久保 和明	履修対象·条件	作曲領域科目					
【授業の	D概要】							

前期は古典・ロマン派の音楽を、後期はマーラーとリヒャルト・シュトラウスを中心に、比較演奏論とオーケストレーションの観点から作品の真実を追求する。

【授業の到達目標】

できるだけ複数のディスクを比較考察することにより、作曲家の真実と演奏の真実を通して、作品の本質を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

レクチャー半分、残りの半分は担当教員との活発な議論である。様々な問いかけに対して、 自分の意見を述べ、ディベート能力を養う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- 毎回課題となる作品の充分な読み込みが必要とされる。
- 活発なディスカッションが理解と評価につながる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・譜面をどの程度読み込んでいるか(どのような発見があるか)という理解力と それを伝える表現力を毎回評価する(70%)
- ·自由研究のレポート提出(30%)

教科書	著者等	出版社	
教科書	著者等	出版社	
参考文献	著者等	出版社	
参考文献	著者等	出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ベートーヴェン: Symphony No.3	事前にスコアを良く読んでおくこと
第2回	ベートーヴェン: Symphony No.5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第3回	ベートーヴェン: Symphony No.7	事前にスコアを良く読んでおくこと
第4回	チャイコフスキー:Symphony No.6	事前にスコアを良く読んでおくこと
第5回	チャイコフスキー:Symphony No.6	事前にスコアを良く読んでおくこと
第6回	ブラームス:Symphony No.3	事前にスコアを良く読んでおくこと
第7回	ブラームス:Symphony No.3	事前にスコアを良く読んでおくこと
第8回	ブラームス:Symphony No.4	事前にスコアを良く読んでおくこと

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授業内容	準備学習(予習·復習)
第9回	ブラームス:Symphony No.4	事前にスコアを良く読んでおくこと
第10回	プロコフィエフ: Symphony No.5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第11回	プロコフィエフ: Symphony No.5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第12回	ショスタコヴィッチ : Symphony №14	事前にスコアを良く読んでおくこと
第13回	ショスタコヴィッチ : Symphony №.10	事前にスコアを良く読んでおくこと
第14回	ショスタコヴィッチ : Symphony №.10	事前にスコアを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	レポート提出
第16回	マーラー: Symphony No.5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第17回	マーラー: Symphony No.5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第18回	マーラー: Symphony No.6	事前にスコアを良く読んでおくこと
第19回	マーラー: Symphony No.6	事前にスコアを良く読んでおくこと
第20回	マーラー: Symphony No.7	事前にスコアを良く読んでおくこと
第21回	マーラー: Symphony No.7	事前にスコアを良く読んでおくこと
第22回	マーラー: Symphony No.10	事前にスコアを良く読んでおくこと
第23回	リヒャルト・シュトラウス:英雄の生涯	事前にスコアを良く読んでおくこと
第24回	リヒャルト・シュトラウス:英雄の生涯	事前にスコアを良く読んでおくこと
第25回	リヒャルト・シュトラウス:ツァラトゥストラはかく語りき	事前にスコアを良く読んでおくこと
第26回	リヒャルト・シュトラウス:ツァラトゥストラはかく語りき	事前にスコアを良く読んでおくこと
第27回	リヒャルト・シュトラウス:アルペン交響曲	事前にスコアを良く読んでおくこと
第28回	リヒャルト・シュトラウス:家庭交響曲	事前にスコアを良く読んでおくこと
第29回	スクリアピン:法悦の詩	事前にスコアを良く読んでおくこと
第30回	まとめ	レポート提出

科目名(クラス)	楽曲表現	研究Ⅰ・Ⅱ	開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1.2
担当教員	荻久保 和明	履修対象·条件	作曲領域科目					
【授業の概要】								

前期は弦楽四重奏曲、後期は声楽を含む作品をテーマに室内楽の表現と作品の真実を追求する。

【授業の到達目標】

できるだけ複数のディスクを比較考察することにより、作曲家の真実と演奏の真実を通して、作品の本質を知る。

【授業の「方法」と「形式」】

レクチャー半分、残りの半分は担当教員との活発な議論である。様々な問いかけに対して、 自分の意見を述べ、ディベート能力を養う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- 毎回課題となる作品の充分な読み込みが必要とされる。
- 活発なディスカッションが理解と評価につながる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・譜面をどの程度読み込んでいるか(どのような発見があるか)という理解力と それを伝える表現力を毎回評価する(70%)
- •自由研究のレポート提出(30%)

教科書	著者等	出版社	
教科書	著者等	出版社	
参考文献	著者等	出版社	
参考文献	著者等	出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第1回	モーツァルトの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第2回	モーツァルトの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第3回	ベートーヴェンの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第4回	ベートーヴェンの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第5回	ベートーヴェンの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第6回	ベートーヴェンの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第7回	ショスタコヴィッチの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第8回	ショスタコヴィッチの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授業内容	準備学習(予習・復習)
第9回	ショスタコヴィッチの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第10回	バルトークの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第11回	バルトークの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第12回	バルトークの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第13回	ベルクの抒情組曲	事前にスコアを良く読んでおくこと
第14回	ウェーベルンの弦楽四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	レポート提出
第16回	シューベルト:岩の上の羊飼い レスピーギ:日没	事前にスコアを良く読んでおくこと
第17回	ロドリーゴ:カスティーリャ詩集	事前にスコアを良く読んでおくこと
第18回	ブリテン: イリュミナシオンOp.18 セレナードOp.31	事前にスコアを良く読んでおくこと
第19回	ブリテン: 聖ニコラス, ミゼリコルディウム (カンタータ)	事前にスコアを良く読んでおくこと
第20回	シェーンベルク:弦楽四重奏No.2	事前にスコアを良く読んでおくこと
第21回	シェーンベルク: 月に憑かれたピエロ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第22回	フォーレ:パヴァーヌ ラヴェル:マラルメの3つの詩	事前にスコアを良く読んでおくこと
第23回	ファリャ:プシュケ ヴィラロボス:ブラジル風バッハNo5	事前にスコアを良く読んでおくこと
第24回	ショスタコヴィッチ:ブロークの詩による7つのロマンス	事前にスコアを良く読んでおくこと
第25回	間宮芳生:セレナードⅢ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第26回	松下真一:ソプラノと室内アンサンブルのための音楽	事前にスコアを良く読んでおくこと
第27回	三善晃:トルスⅣ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第28回	佐藤聡明:ホーマ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第29回	池辺晋一郎:軌道、エレベーター	事前にスコアを良く読んでおくこと
第30回	柴田南雄:庭に詠める歌	レポート提出

科目名(クラス)	作曲楽書	特別研究	開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1•2
担当教員	上山 典子	履修対象·条件	作曲領域科目					
【授業の概要】								

本授業では英語で書かれた文献(音楽書、理論書、音楽事典の項目、演奏会の楽曲解説など)を読むことで、その内容的理解を深めていきます。The Harvard Dictionary of Music や The New Grove Dictionary of Music and Musicians 第2版などの音楽事典から20世紀以降の作曲家(邦人作曲家を含む)や作品、音楽用語の項目のほか、20世紀を中心とする作品の楽曲解説、CDの解説書等を取り上げます。ただし、履修者の専門、興味関心、語学力によっては、扱うテキストおよび下記の授業内容を変更する可能性があります。

【授業の到達目標】

履修者は年間の授業を通して英語による音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指します。また、英語圏の文献で日本の現代音楽や作曲家がどのように解説されているのかを知ることで、世界における我が国の音楽事情や音楽文化における位置づけについて考える機会とします。

【授業の「方法」と「形式」】

英語文献を履修者全員で輪読します(演習形式)。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回、予習が必要です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎週の予習状況(50%)、および学年末に行う筆記試験(50%)

教科書	(毎回プリントを配布します)	著者等	出版社	
教科書		著者等	出版社	
参考文献	英語圏の音楽事典など(授業中に随時紹介)	著者等	出版社	
参考文献		著者等	出版社	

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	【前期】 音楽史関連の英語文献紹介、各国における『音楽事典』出版史概観	予習:音楽史の時代区分について確認する 復習:様々な音楽事典を図書館で確認する
第2回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第3回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半つづき)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第4回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第5回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀後半つづき)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第6回	New Groveの講読内容を踏まえ、20世紀の音楽史・音楽文化について検討、議論	予習:20世紀音楽史の変遷を見直す 復習:音楽史における20世紀について考える
第7回	英語圏の音楽事典から、20世紀の作曲家「ストラヴィンスキー」(仮) の項目を読む①	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第8回	「ストラヴィンスキー」の項目②(第二次世界大戦前)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す

	【授業計画·内容·準備学習】	
回数	授 業 内 容	準備学習(予習·復習)
第9回	「ストラヴィンスキー」の項目③(大戦後の活動について)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第10回	「ストラヴィンスキー」の項目④(作品一覧、備考、死後の評価)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第11回	「ストラヴィンスキー」の講読内容を踏まえ、この作曲家や音楽様式、 社会における位置づけについて検討、議論	予習:作曲家と社会の関係について考える 復習:ストラヴィンスキー以外の作曲家と20世紀 社会について考える
第12回	英語圏の音楽事典から、20世紀の作曲家「ショスタコーヴィチ」(仮)の 項目を読む①	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第13回	「ショスタコーヴィチ」の項目②(スターリン時代)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第14回	「ショスタコーヴィチ」の項目③(ポスト・スターリン時代)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第15回	ショスタコーヴィチとソヴィエト連邦の音楽状況について検討、議論	予習:作曲家と政治の関係について考える 復習:ソ連以外の事例についても考える
第16回	【後期】 演奏会における「プログラム・ノート」の歴史的解説	復習:演奏会史の概略を確認する
第17回	新ウィーン楽派の作品解説(19世紀末の大規模管弦楽曲)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第18回	新ウィーン楽派の作品解説(無調作品)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第19回	新ウィーン楽派の作品解説(12音技法による作品)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第20回	ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番(第1楽章)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第21回	ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番(第2楽章)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第22回	ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番(第3楽章)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第23回	武満徹(またはその他の邦人作曲家)の作品解説①	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第24回	武満徹(またはその他の邦人作曲家)の作品解説②	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第25回	『New Grove 音楽事典』の「Japan」の項目について解説	予習:配布資料に目を通す 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第26回	「Japan」の項目を読む① (明治時代の洋楽受容期)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第27回	「Japan」の項目を読む②(大正〜昭和前半)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第28回	「Japan」の項目を読む③(第二次世界大戦後)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第29回	「Japan」の項目を読む④(1980年代以降の日本における西洋音楽について)	予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す
第30回	筆記試験および内容確認(授業前半に試験を行い、後半には履修者 全員で内容確認をします)	予習:試験の準備 復習:試験の内容を読み直す

科目名 ピアノ特別演習 I

【授業計画の概要】

大学4年の実績に立ち、さらに2年間の延長として、自分自身の成長を期す。より専門的な探求を通して、内的充実を図り、また音楽以外の充実を図るようにする。

【授業の到達目標】

自分自身で研究課題を決定し、達成されるように努力する。また、ピアニスト、及びピアノ教育者としての高度な技術、理解力、分析力を習得する。

【成績評価の方法】

12月の院1コンサートに向け、内外ともに充実を図り、成果を出来具合と共に取り組み態度等を総合的に評価する。

【授業計画の	内容】				
月	内 容				
4					
5	・より高	・担当教員と綿密に連絡を取り合い、研究課題を決定する。 ・より高度な演奏技術、及び作品の構造様式的特徴を研究し、演奏技術に役立て ながらレパートリーの拡大、定着に努める。			
6					
7					
8	・院1コンサートの準備 ・曲のアナリーゼはもちろん、作曲者や時代背景についても精査し、演奏に反映するように努める。				
9					
10		研究成果を踏まえ、院1コンサートのさらなる充実を期する。			
11	・その句	T究成果を十分			
12	・院1コンサート				
1	-・3週間のウィーン研修に参加 ・大学3年次のウィーン研修とは比較にならないほど充実した研修を通して、より積極的に さらなる内的発展・充実を期す。 -・研究対象の豊かな成果を目指して努力も、2年次での研究活動に備える。				
2					
3					

		2019年度 東邦音楽大学大学院			
科目名	ピアノ特	寺別演習 Ⅱ			
【授業計画の	概要】				
1年次に学習し#	た研究成	果をもとに、さらなる充実、内的発展を期する。			
【授業の到達	目標】				
修了演奏会にお	ける自分	}のベストの演奏を目指す。これまでに修得した技術、理解力、分析力を駆使する。 -			
【成績評価の	方法】				
約30分の修了》	約30分の修了演奏会を行い、修士論文と合わせて学位審査の対象となる。				
【授業計画の	内容】				
月		内 容			
4					
5					
6		i文のテーマ、及び研究対象作品について担当教員や貴学教員と連絡を密にして いを行う設定したテーマに従い、あらゆる角度から多角的、かつ広範囲に研究を進めていく。			
7					
8					
9					
10		■奏会で演奏する作品の技術的・音楽的側面から徹底したアプローチ、研究、そして練習を行う。			
11	•修士演 	最奏会完成に向けて、理論的研究を進めていく。			
12					
1					
2	- ●修士論 -	論文と連携した、より完成度の高い修了演奏を目指す。			
3					

科目名

声楽特別演習 I

【授業計画の概要】

音楽特別演習 I においては、これまでに培われてきた声楽における基礎的訓練を発展させ、さらに高度な音楽表現に応えられる演奏技術の習得を個人レッスンにより追及し研鑚を積む。加えて高度な声楽技術・正確かつ幅広い学術に裏づけされた読譜力・客観性・解釈力を養う。

12月に公開演奏「院ーコンサート」が行われる。

【授業の到達目標】

自己の持つ音楽能力・技術の上達の為に努力し、どの様なレパートリーが合っているか知っていく。

【成績評価の方法】

研究成果を総合的に評価する。

月	内 容			
4	◎より高度な声楽技術の習得を目指す			
5	◎より高度な戸来技術の自存を占領す ・発声法の充実 ・大学4年間で身に付けた基礎力を客観的に見直し、成熟させていく ・歌唱に適切な正確なディクションについて平行して研究を進める			
6	- 歌唱に過めな正確なアイノンコンに プレ・ピー・ロン こめ 光さ 歴める			
7	◎声に適切なレパートリーを研究し、研鑽を積む			
8	● 「個々の声に合わせたレパートリーを検討し、それを習得して行く ・オペラ、歌曲、宗教曲の分野に対応する為の技術、語学、様式感の習熟を目指す ・多様な曲への取り組みにより、読譜力、解釈力を養う			
9	ショネ・み皿 ・シン・ハン・ハー・ロン・ハー・ハン・ファー・スク			
10	 ◎院一コンサート及びウィーン研修への準備			
11	・大ホール、グランツザールにおける公開演奏「院ーコンサート」が12月に行われる。 声楽特別演習 I の集大成としてプログラムを構成し、その成果を問うものである。 「院ーコンサート」と平行してウィーン研修の準備を進める。			
12	・は、コン・コン・コン・コン・対応の十届とたのか。			
1				
2	◎ウィーン研修 ・3週間に渡ってウィーンアカデミーにおいて研修を行う。 「発声法」「歌唱指導」「朗読法」等の授業を経て「修了コンサート」を行う。			
3				

科目名 声楽特別演習 Ⅱ

【授業計画の概要】

声楽特別演習 Ⅱ においては、演習 I での研究をさらに深め、実際の演奏を想定したレパートリーを作成していく。

2月に修了演奏会を行う。

【授業の到達目標】

個々の声の特性を考慮したプログラムのもと音楽様式・技術・表現への研究を重ね、公開演奏をする事により、将来の演奏への糧とする。

【成績評価の方法】

研究成果を総合的に評価する。

EXCELLENCE OF THE PARTY OF THE	
月	内 容
4	◎レパートリー研究を進める
5	個々のレパートリーの方向を見出して行くが、演習Ⅱではさらに専門的に掘り下げていく。 幅広い声楽分野に対応できると共に、特定の分野を専門的に深め磨いて行く事も重要で ある。
6	
7	◎音楽表現の研究
8	演奏技術を礎として音楽表現を身に付けるために作品解釈、様式への知識、更に豊かな 感性が必要である。 音楽に欠くことのできない言語表現への研鑽と共に音楽表現への研究を進める。
9	日本に入べてこのできない日間収め、一の対象に入れて日本収め、一の対方にと述ってい
10	 ◎修了演奏会のプログラム作成及び研究
11	声楽特別演習 I・Ⅱ の集大成としてのプログラム作成を行う。個々の声の特性を考慮した プログラム設定である事。 調性、テンポの緩急などプログラム構成についても研究をする。
12	maltre to the state of the stat
1	◎修了演奏会
2	◎ 『
3	

科目名 管弦打楽器特別演習 I

【授業計画の概要】

1年次においては大学4年間で築き上げた「基礎・応用技術」の更なる修得に加え、独奏曲研究・オーケストラスタディーを中心にクオリティーの高さを目指す。また。特殊奏法や、特殊楽器の奏法等の研究も行っていく。 また、コンクール・オーディション対策や指導法に対する研究も組み入れていきたい。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

研究成果を総合的に評価する。

月	内 容				
4					
5	前期) 基礎奏法・応用奏法の更なる修得				
6	幸媛矣法・心用矣法の更なる修得 特殊奏法の修得 楽曲(独奏曲)研究、及びメソード・エチュード研究 オーケストラ・スタディー				
7	オープスドプラスティイン・スティイン・スティイン・ストプラスティイン・オーディション対策 指導法研究 ウィーン研修のための楽曲研究				
8	1年次生演奏会(院1コンサート)のための楽曲研究				
9					
10					
11	後期) 基礎奏法・応用奏法の更なる修得				
12	幸祉美法の修得 特殊奏法の修得 楽曲(独奏曲)研究、及びメソード・エチュード研究 オーケストラ・スタディー				
1	イ ・				
2	点検と評価、及び来年度に向けての計画作成				
3					

科目名

管弦打楽器特別演習Ⅱ

【授業計画の概要】

2年次においては、大学4年間及び、大学院1年間の集大成というコンセプトの基にあらゆる要素の完結を目指す。 演奏会にとって基礎奏法の修練に終わりはない。

どれ程のレベルに達しても、毎日の練習は基礎奏法から始めることが必須である。

「基礎奏法」「応用奏法」「特殊奏法」のさらなる修得に加え、1年次に引き続きコンクール・オーディション対策や研究を行って行きたい。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

研究成果を総合的に評価する。

	中
月	内 容
4	
5	(÷6 #B)
6	(前期) ・基礎奏法・応用奏法・特殊奏法の更なる修得 ・楽曲(独奏曲)研究、及びメソード・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディ
7	・コンクール・オーディション対策 ・指導法研究 ・学位審査修了演奏会のための楽曲研究
8	
9	
10	
11	(後期) ・基礎奏法・応用奏法・特殊奏法の更なる修得
12	・楽曲(独奏曲)研究、及びメソード・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディ ・コンクール・オーディション対策
1	・指導法研究 ・学位審査修了演奏会のための楽曲研究 ・2年間の点検と評価
2	・修了後の演奏活動、指導活動に対する基本的コンセプトの確立
3	

科目名 作曲特別演習 I 【授業計画の概要】 院1コンサートでの発表作品を中心に創作活動を行う。ピアノ、声楽、管弦打の院生のメンバーを考慮 に入れて室内楽作品を制作する。 合わせて、難易度の高い和声、厳格フーガ、合唱曲の創作・オーケストラの研究も行う。 【授業の到達目標】 院1コンサートで演奏可能なソロ~10人以内の室内楽を創作する。その際、その作品のコンセプトを明確にし、表現の可 能性を追求すること。 【成績評価の方法】 実技試験による 【授業計画の内容】 月 内 容 4 高等和声・厳格フーガ・合唱曲の創作 5 オーケストラの研究 6 7 8 " 9 10 11 院1コンサート用作品の創作及び提出 12 1 吹奏楽、各種コンチェルト、合唱付き管弦楽曲のオーケストレーションの研究 2 3

2019年度 東邦音楽大学大学院 科目名 作曲特別演習Ⅱ 【授業計画の概要】 修士作品の創作を中心に行う。 可能な限り、日本及び海外へのコンクールへも積極的に参加させる。 ゲーム、ドラマ、映画音楽などメディア対応作品の研究も深め、グローバル化への対応とする。 【授業の到達目標】 修了演奏で可能な形態の室内楽及び修了作品として、ふさわしいオーケストラの作品を創作する。 何を書きたいか、何で書くべきか、何のために書くのか、それぞれの表現の可能性を追求すること。 【成績評価の方法】 実技試験による 【授業計画の内容】 月 内 容 4 5 ゲーム音楽、ドラマの音楽、映画音楽の研究と試作品制作 6 7 8 修士作品及びコンクール参加作品の制作 9 10

修士作品及びコンクール参加作品の制作

修士作品及びコンクール参加作品の制作

11

12

1

2

3